

# 平成22年度一般会計予算 17億3000万円で編成

平成22年度予算の概要をお知らせします。ここ数年は厳しい財政状況から投資的経費や人件費を中心に歳出の削減に努めてきましたが、本年度の一般会計予算は総額17億3000万円で、前年度と比較して1億5000万円の増額となりました。

本年度予算は、地元経済の活性化を図るため観光事業の充実や子育て支援に力を入れるなど、村の将来を見据えた施策を盛り込んだ予算となっています。

財源は、地方交付税や宝くじ協会助成金等の増加を見込みました。なお、地方交付税等の増額を見込んだことにより、昨年同様に財源不足を補うための基金からの繰入れは行わないこととなりました。

## 歳入

## 歳出

## 主要事業

と比較して6754万円増額しました。

歳入は、税金などの「自主財源」と国や県に頼った「依存財源」の大きく2つに分けられます。「自主財源」が多いほど、村独自のサービスを行ったり、将来に向けて積立を行うなど行政の自主性と安定性が確保されます。東秩父村は、「自主財源」が全体の22・5%で、財源の多くを「依存財源」が占めています。

一般会計予算における歳入は、前年度と比較して個人住民税や固定資産税などの村税は減少しましたが、地方交付税や国庫・県支出金、宝くじ協会助成金等を増額と見込みました。村の歳入の骨格である地方交付税は、歳入総額の57・7%を占め、7300万円の増額となり、9億9900万円となりました。

歳出は、議会費、衛生費が減額となりましたが、総務費、民生費、農林水産費等で増額となりました。

性質別歳出は「義務的経費」と「投資的経費」、「その他の経費」に分けることができます。義務的経費は人件費、扶助費、公債費で構成され、支出が義務づけられている経費で、地域手当の廃止、期末・勤勉手当の削減により、人件費は前年度と比較して1847万円の減額となりました。

投資的経費は、道路や公共施設の建設といった行政水準の向上にかかる経費で、普通建設事業費、災害復旧事業費から構成されます。今年度の投資的経費は1億4823万円で、前年度

平成22年度の主要事業は、城山保育園での一時保育の開始、花桃の拠点となる大内沢地内の「花桃の郷」や遊歩道等の整備により観光事業の充実を図ります。防犯対策として、防犯灯および街路灯の台帳整備や村道1-1号線においてLED灯を試験的に導入します。

また、森林管理道や生活道路を中心とした村道の整備を行い、さらに、槻川をきれいにするため、合併処理浄化槽の普及促進に努めるとともに坂本および御堂村営住宅へ設置し、環境対策の充実を図っていきます。

## 一般会計予算の状況

